

第4回共通語彙基盤ワーキンググループ 議事概要

1. 日時・場所

2016年2月26日(金) 16:00~18:00
経済産業省 別館 11階 1115室

2. 委員等

委員長

武田 英明 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授

委員

坂下 哲也 一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC)
電子情報利活用研究部 部長

菅又 久直 国連 CEFACT 日本委員会
サプライチェーン情報基盤研究会 事務局長

深見 嘉明 立教大学
(欠席) 大学院ビジネスデザイン研究科 特任准教授

武藤 俊一 一般財団法人 全国地域情報化推進協会 企画部 担当部長

(委員 50音順)

3. 議事概要

3.1. 開会 (経済産業省平本 CIO 補佐官)

事業が進み成果も顕著に現れている。今後の方針についてもご意見をいただきたい。

3.2. 共通語彙基盤に係る政府の取り組み状況について

資料1に基づき、電子行政分野におけるオープンな利用環境整備に向けたアクションプラン(平成26年4月25日 CIO 連絡会議決定)に沿って、情報連携用語彙データベースβ版、データカタログなどの、オープンデータ化の支援状況を報告。また、各省での共通語彙基盤の取り組み状況について報告した。今後、経済産業省では、共通語彙を利用して構造を見直した法人番号や政府内情報を利用した法人ポータル(仮称)

サイトの公開や、各組織が独自で公開している情報を、共通語彙基盤を活用して一元化するなど、データを幅広く活用できる取組みを進めていく予定。

3.3. 共通語彙基盤事業進捗状況報告

資料 2 に基づき、共通語彙基盤事業の進捗状況について報告。

また、資料 3 に基づき、基盤構築の技術的検討から政府内での導入へとフェーズが移行してきたため、相互運用性に関する検討を強化するために、検討体制の見直しを提案。「政府情報システム刷新等ワーキンググループ」の下に、各府省担当者が具体的な導入経験や課題について情報共有を図る場として「相互運用性検討サブワーキンググループ」を新たに設置したい。

→「相互運用性検討サブワーキンググループ」の設置については賛同され、3月7日開催予定の「情報共有基盤推進委員会」に、武田委員長から提案することとなった。

3.4. 2016 年度方針について

資料 4 に基づき、2016 年度共通語彙基盤事業方針について説明。

共通語彙基盤の活用・運用ポリシー策定・API 等の技術的内容などを検討する新たな SWG の設置について、および共通語彙基盤の主となるデータベースとそれに連携するツールの構築について、2016 年度の方針は承認された。

3.5. 質疑・応答

- 閣議決定工程表にある日本語版 NIST はどのくらいのリアリティをもっているのか
 - 中期計画（2016 年度～2018 年度）で検討予定であり、これから各省庁と打合せを始める。どのようにするべきかを提言していただきたい。
- 法人ポータル(仮称)について
 - 法人情報はニーズが高いと考えられるので、普及のチャンスと考える。
- 法人ポータル(仮称)のオーナーはどこか
 - 現時点では経済産業省、全省の情報を入れるとしたらオーナーは総務省等政府の適切な施設にする検討が必要。ドメイン管理を考慮するといろいろな部署が絡んでくるのでオーナーをどこにするか重要である。
- 法人ポータル(仮称)の検証の結果、既存データのマッチングについての確立はどのくらいか。
 - オプション 1 で対応した結果、項目によってマッチングのばらつきがあった。法人データは 90% くらいだが、事業所データについては 20% ほど。
- 自治体がコア語彙を活用し始めたきっかけは
 - 森町は LOD チャレンジと聞いている。
 - ツールを隣接する自治体で作るなど、共同で連携して成果を出している。
 - 各自治体の成果から、ベンダー・ユーザー企業が興味を持ち、民間企業への広がりを期待する

- コア語彙の公開内容の差分について
 - 前回のWGで決まった方向で、問題なく進んでいる。
- 相互運用性検討 SWG 設置について
 - 地理空間情報も語彙基盤がないとデータ連携が出来ない。是非、各省庁内で議論した上で最適化して欲しい。
 - 今後、クラウド事業での名寄せを始め、色々な事業の中で活用されるような機運がでてくると思う。
- 語彙の検討に係るマイルストーンには、オリンピックに向けた取組みの検討はあるか
 - 語彙基盤の活用は既に始まっているので、各組織でオリンピックに係る事業に自由に利用する事は出来る。オープンデータのコミュニティなどと一緒にイベントを実施するなど、アウトリーチの項目を検討しても良い。公だけでなく民も使える共通語彙基盤として、今年度設置予定の SWG で検討していきたい。
- 現在公開中の共通語彙基盤の URL は IPA の下にあるが、imi.go.jp の様に、独立した場所にあるのが望ましい。移設の方法やタイミングなど、今後検討していく必要がある。
- 海外との連携についての見通しはどうか。
 - 語彙のマッピングは非常に難しいが、まずはマッピングのガイドライン作りから作業が始まったところである。NIEM は独自に進めているが、ISA は欧州内での普及へむけて日本を参考にしようという動きも出ている。

3.6. 閉会

次回開催は 2016 年度末を予定。

以上